

## スポーツマンシップ・ブラザーフッド その創始と「スポーツマンシップ」の性格

阿部生雄\*

### Sportsmanship Brotherhood The Creation and Features of Its “Sportsmanship”

ABE Ikuo, Ph.D.\*

#### Abstract

The idea of Sportsmanship Brotherhood's “sportsmanship” movement originated from an idea of an English press-man, P.R. Creed, allegedly an adherent of freemasonry, who visited America in 1923 to report the match of a game between England and America. Although its accurate foundation has been uncertain, it might be in 1926, when the conference for the National Federation of State High School Athletic Association was held in New York. This paper focuses on the process and factors of the creation of Brotherhood, and also unveils its organization, function and business. It also analyses the features and character of “sportsmanship” that the Brotherhood tried to advocate.

It could be concluded that the Brotherhood's “sportsmanship” consists of seven features, or characteristics. 1. The sportsmanship creates peace keeping relationships between countries, like internationalism inspired by freemasonry. 2. The sportsmanship movement has strong relationships with the idea of a “secular” Christianity that could be transcending denominations; which means, therefore, it has had still something to do with Christianity as a whole. 3. The Brotherhood believes that “sportsmanship” can diffuse democracy all over the world. 4. As a peace keeping organization, the Brotherhood denied the use of war, while it tried to keep a fighting spirit and “a moral equivalent of war”, in other words, “a battle for the Lord”. 5. Because Matthew Woll, the president of the Brotherhood, was also the vice-president of American Federation of Labor, Brotherhood's sportsmanship movement had a strong connection with a policy of preserving human resources. 6. The Brotherhood believes that sportsmanship can be a cultural tool for breeding a boy up to a “gentleman”. 7. Brotherhood's “code of honor of a sportsman” is composed of all of moral elements relating to life, as if it relates more to the bringing up of a citizen than to a sportsman.

**Key words:** Sportsmanship Brotherhood, sportsmanship, America, P.R. Creed, A.E. Hamilton

#### 1. はじめに

イギリスのアスレティズムが世界的現象となって普及したのは、19世紀後葉からのことであったと考えられる。それに伴って、スポーツを若者

の性格形成の手段として教育的に利用しようとする意識的な運動が興隆したことは良く知られている。しかし、スポーツマンシップの国際的な普及運動の歴史に関しては、従来、必ずしも十分に研

\* 筑波大学体育科学系 Comprehensive Human Sciences University of Tsukuba

究されてきたとは言い得ない。Pierre de Coubertin によるオリンピック運動の創始(1896)がスポーツマンシップの国際的普及運動に画期をもたらしたことは良く知られているが、「スポーツマンシップ」という理念に一種の倫理綱領をもたらした組織として、アメリカのスポーツマンシップ・ブラザーフッド(Sportsmanship Brotherhood)がある。本研究は、スポーツマンシップの倫理綱領を国際的に普及しようとしたスポーツマンシップ・ブラザーフッドのスポーツマンシップ運動の創始の経緯と活動に焦点を当て、その「スポーツマンシップ」の性格について幾分かの言及を試みようとするものである。

## 2. スポーツマンシップ・ブラザーフッド創始の経緯

アメリカにおいてスポーツマンの資質をめぐる議論は、20世紀への転換期頃、幾つかのスポーツマン向けの雑誌でしきりになされるようになる。例えば、Charles Hallick は、20世紀の当初にアメリカのスポーツマンを回想し、思索的で空想好きの狩猟家が支配的であった「のどかな時代」が過去のものとなりつつあり、今や「金銭の時代」となっていると感じていた。

「今や我々は、金銭の時代を迎えている。・・・もはや穏やかで、観照的で、安息に満ちた、無為の愉しみに向けられたのどかな時代は去り、消耗的で、骨の折れる、目の回る、刺激的で活力に満ちた時代を迎えている。・・・全てが大規模で金がかかる。高価である。フットボールはもはや娯楽ではなく、バトル・ロイヤルである。大学外のベースボールは、そのものためにプレーされる。競馬場やフィールドやレガッタコース、そしてキャンパスでのスポーツは、プレーを楽しむことよりも勝利することが仕事となる。・・・かつて、我々のたつての望みは自分たちの娯楽を最大に楽しむことであったが、現在では、どのようにそれらで儲けるのかである。・・・我々は、初期の時代の代表的スポーツマンに属す時代遅れの人間なのである。」<sup>1</sup>

ここには、スポーツのプロ化と商業化への激しい波を呆然と見やり、自らを過去のスポーツマンと認める他のない、あるアメリカ人の諦めと嘆きが窺える。そして、未だ、古きスポーツマンの資質に代わる新たなスポーツマンの資質を見出せ

ないでいる。

一方、J. Corbin は *The Modern Chivalry* という記事の中で、イギリスで典型的に発展を遂げたスポーツの精神に学ぶ必要を説いている。「スポーツの精神と営為が最も古くかつ最も完全に発達を遂げたのはイングランドである。我々が戸外レクリエーションを導入してきたのはイングランドからであった。スポーツマンシップの潜在力という点で、イギリスの生活におけるその位置と機能を十分に理解することほど、重要でためになることは他にないであろう。」<sup>2</sup>そして、スポーツマンシップの精神をその起源から学ぶことは困難であろうが、その「風土」から学ぶことはできるであろう、と主張する。少なくとも、この二人のアメリカ人にとって、「スポーツマンシップ」は、一つの時代精神として自覚され始めたのであった。

また20世紀の初期には、YMCA は国際的な視野からスポーツとスポーツマンシップの普及を展望していた。<sup>3</sup> E.S. Brown による国際的な地域競技会の構想は、そうしたYMCAのスポーツマンシップ普及運動の一つの成果であったと言えよう。例えば、第一次世界大戦が終結した1919年の6月22日から7月6日にかけて催された Inter Allied Athletic Games の開催を画策したのは E.S. Brown であったし、また1920年代初期に、Far Eastern Olympic Games、The South American International Games、Indian Empire Games、Central European International Games、等の一連の地域競技会の創始を画策したのも彼であった。<sup>4</sup> YMCA は、明らかに地域競技会の創出とスポーツマンシップの普及に、世界秩序の調停機能を期待していたのであった。

しかし、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの創設には一人のイギリス人を必要とした。その創設は、A.E. Hamilton によれば、陸軍の軍歴を経て Times の新聞記者となった P.R. Creed というイギリス人の発想によっているという。彼は1923年にアメリカで行われたイギリスとのある国際試合の取材に訪れた際に、その晩餐会でスポーツマンシップを国際的に普及する組織の必要性を訴え、多くの賛同を得、その後、Massachusetts 州 Worcester で活動を開始して、次第にアメリカの有力者の協力を獲得したという。<sup>5</sup> この組織が正式にいつ発足したのかは、今のところ確定できないが、同じ1923年には、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの副会長となる J.P. Bowditch によって、

「スポーツマンシップの精神を世界中に育み広めること」という活動の目的と「ルールを守る、自分の仲間との信義を保ち自分のチームのために正々堂々と競技する、体力をつける、自制心を保つ、卑怯なことをしない、勝つてもうぬぼれない、潔く敗北を受け入れる強い心を保つ、健康な肉体に健全な魂と清らかな精神を保つ」というスポーツマンの名誉の規範が提起された。<sup>6</sup> 1926 年、New York での州立高等学校競技協会全国連盟 (National Federation of State High School Athletic Association) の総会でスポーツマンシップ・ブラザーフッドの活動計画を発表し、恐らくこの総会でスポーツマンシップ・ブラザーフッドの「憲法」が採択された。スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、同年に *Sportsmanship* という小冊子を発行し、スポーツマンシップの普及運動に本格的に乗り出したのであった。

### 3. スポーツマンシップ・ブラザーフッドの目的と組織構成

現時点で、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの「憲法」がいつ起草され、発行されたのかを資料的に確定することはできない。しかし、恐らく 1926 年頃、或いはそれ以後に出版された *Constitution of the Sportsmanship Brotherhood, Inc.* によれば、その理事が 1926 年の総会で認定され、創始時以後の理事はその後の総会で選出されることが規定されている。従って、この「憲法」は、1926 年の総会に向けて起草され、この総会で承認された可能性が極めて高い。しかし、その発行は、法人格取得のために 1926 年以後になされた可能性もある。スポーツマンシップ・ブラザーフッドの「憲法」は、第 1 条「名称」、第 2 条「目的」、第 3 条「理事会」、第 4 条「役員」、第 5 条「委員会」、第 6 条「会員」、第 7 条「総会及び会合」、第 8 条「国際関係」、第 9 条「バッジと賞」、第 10 条「改正」から構成されている。

#### 1.) スポーツマンシップ・ブラザーフッドの目的

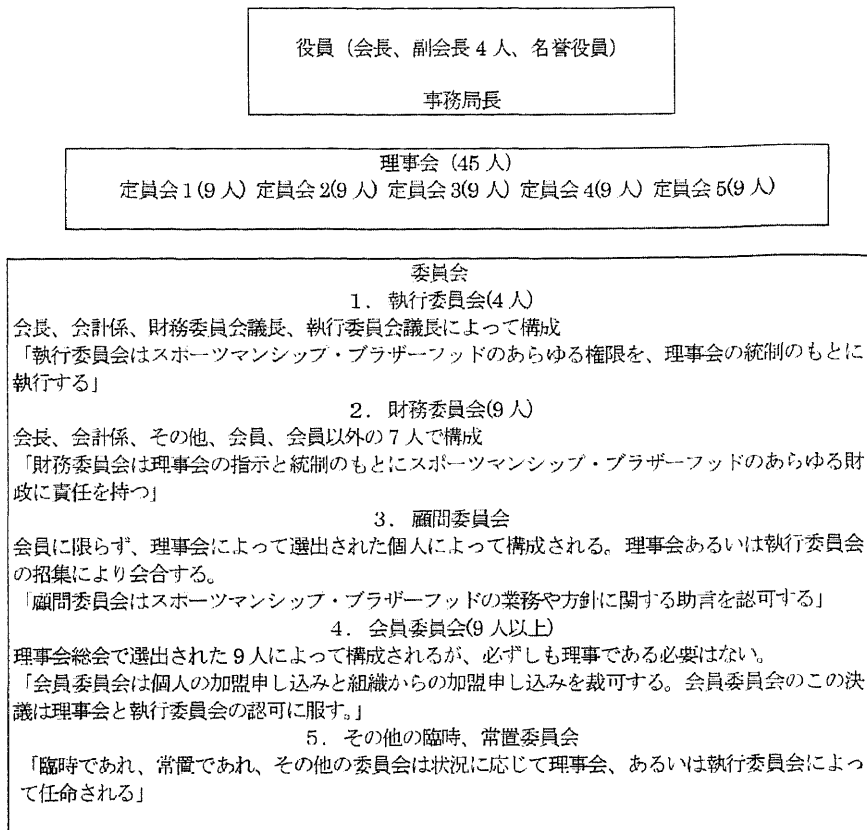
「憲法」第 2 条で規定されている「目的」(purpose) は、「1. アメリカ合衆国に設立されたスポーツマンシップ・ブラザーフッドは、世界中に良きスポーツマンシップの福音を普及することに貢献する。真の人格の高貴さは、どのように勝利するか、どのように敗北を受け入れるのかに現れるのであり、

単に勝つことにあるのではない。スポーツマンシップとは、労働の恩恵と遊戯の喜びを高めるその資質のことである。2. スポーツマンシップ・ブラザーフッドの諸目的は、あらゆる人類が、個人的、国家的、国際的なあらゆる種類の努力において、人生のゲームをフェアに寛大に行うよう奨励することである。3. スポーツマンシップの名誉の規範は、ルールを守る、自分の仲間との信義を保ち自分のチームのために正々堂々と競技する、体力をつける、自制心を保つ、卑怯なことをしない、勝つてもうぬぼれない、潔く敗北を受け入れる強い心を保つ、健康な身体に健全な魂と清らかな精神を保つ」という三つの項目で説明されている。<sup>7</sup> この「目的」から明らかなように、スポーツマンシップ・ブラザーフッド創始の目的は、単にスポーツにおける公正な勝負の仕方を普及することにあつたのではなく、その勝負から身につけることのできる健康な身体、健全な精神、公正で寛大な態度を、広く日常生活や国際理解に敷衍しようとするにあつた。それは「スポーツマンシップの福音」の普及という用語法が示すように、暗黙裡にキリスト教を核とする「世俗」的、人道主義的、博愛主義的な立場から、スポーツマンシップを生活倫理確立の指標とし、若者に遊戯・スポーツの次元から修養を体験させようとする健全な市民育成のための一つのムーヴメントの創始を意味した。

#### 2.) スポーツマンシップ・ブラザーフッドの組織構成

「憲法」に、「スポーツマンシップ・ブラザーフッドの理事会は、当ブラザーフッドの諸事に関わる一般的任務、運営、統制を行う」<sup>8</sup> と規定されているように、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの組織運営の中核は 5 つのグループに 9 人ずつ配置された会員 45 人からなる理事会によって担われる。(図 1 を参照) 最終的な意思決定は年次の総会でなされるが、活動方針の策定の権限はこの理事会が掌握していたと言ってもよい。各グループ 9 人の理事は定員会を構成し、その任期は 5 年間である。年次総会毎に一つの定員会が順次改選されるようになっており、新たな 9 人の理事は総会で無記名投票によって選出されるようになっていた。

役員は、一人の会長、第一から第四までの各一人ずつの副会長、一人の会計係、そして理事会が任命して選出する名誉役員によって構成される。



## 会員

### 1. 個人会員

- (1) 基金会員：1000 ドル以上を基金に払った人。総会での投票権を有する。
- (2) 支援会員：50 ドル以上の年会費を払う人。総会での投票権を有する。
- (3) 活動会員：10 ドル以上の年会費を払う人。総会での投票権を有する。
- (4) 名誉会員、准会員：会員委員会の推薦と理事会での承認によって選出された人。総会での投票権を持たない。

### 2. 支部会員

スポーツマンシップ・ブラザーフッド本部から憲章を付与された支部。

- 1) 支部会員：年会費 10 ドル以上を払っている学校、クラブ、プレーイング・フィールド等の支部。総会で 1 人の代表投票の権利を有する。
- 2) 准支部会員：年会費を納入しないで支部登録をしている支部。総会で代表投票の権利を有しない。

### 3. 組織会員

自らスポーツマンシップを普及する地方的、州、全国的、国際的な組織で、10 ドル以上の年会費を納入している組織、10 ドル毎に 1 人の代表投票の権利を持つが、10 人を越えることはできない。

図 1 スポーツマンシップ・ブラザーフッド組織図

役員の任期は一年で年次総会の時に理事会で選出される。また、理事会あるいは執行委員会は、理事会の指示の下で一人の事務局長とスポーツマンシップ・ブラザーフッドの活動を遂行するのに必要な秘書や補佐を雇うことができた。<sup>9</sup> 事務局長

は、1926 年に選出された役員に位置づけられており、実際には役員の構成メンバーと考えられる。

「憲法」において、役員の職分は「それぞれの地位に属する通常の義務を遂行する」とのみ規定されており、それらの具体的な権能の内容は明らか

この「憲法」には会長 Matthew Woll、副会長 John P. Bowditch、会計係 James G. Blaine, Jr.、事務局長 Daniel Chase が役員として名を連ねている。理事会は会長 Matthew Woll の議長の下に、第 32 代大統領 (1933—45) となる Franklin D. Roosevelt を含む 32 人が名を連ねている。この陣容は 1928 年に創刊された機関紙 *Sportsmanship* に記載されたものと幾分か異なる。1928 年には、会長と事務局長

に変化はないが、副会長は第1から第4まで任命されており、理事では4名の氏名が消え、新たに11名の者が加わっている。(表1を参照)しかし、よく見ると、その内の6名が1926年に顧問に名を連ねていた者であった。このことは、初期の理事と顧問がスポーツマンシップ・ブラザーフッドの担い手であったことを示していると言えよう。顧問には、1926年にはJames E. Lough 議長の下にJ.F.Williams, W.C.Hetherington, E.D.Mitchellを含む35名が、1928年には37名が名を連ねている。こ

[illegible]

うした役員や理事や顧問の構成は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの性格を何らか物語るものと考えられるが、その分析は今後の課題である。しかし、この組織の会長でありアメリカ労働総同盟副会長でもあった Mathew Woll は、John Dewey から雇用者側の労働の組織者と評されたことから、1929年に彼と論争した人物である。Woll は、Dewey を「東の教育制度にある共産主義の胚種を移植しようとする共産主義プロパガンダに従事している」と誹謗したのであった。<sup>10</sup> 勿論、Dewey はこのことを否定したのであるが、この論争は、教育に対する両者の異なる立場を鮮明にしていると同時に、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの運動の方向性を示唆している。

スポーツマンシップ・ブラザーフッドは執行委員会、財務委員会、顧問委員会、会員委員会、その他の委員会から構成された。「憲法」では、執行委員会は「年次総会で理事会によって選出された理事のうち4人によって構成される。会長、あるいは会長欠席のときはランク順に一人の副会長、会計係、財務委員会の議長である。執行委員会はスポーツマンシップ・ブラザーフッドのあらゆる権能を理事会の統制に従って行使する。当委員会はその議長を選出する」とされている。<sup>11</sup>

財務委員会は理事会によって選出され、「会長（或いは一人の副会長）、会計係の他に少なくとも7人によって構成」される。財務委員会は、理事会の指示と統制に服し、スポーツマンシップ・ブラザーフッドのあらゆる財政に責任を持つ」と規定されている。<sup>12</sup>

同じく、憲法において、顧問委員会は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの理想を実現するような能力と経験を持つ、理事会によって選出された個人によって構成され、「スポーツマンシップ・ブラザーフッドの業務や方針に関する助言を認可する」と規定されていた。<sup>13</sup>

また、「会員委員会は、理事会の年次総会で選出され、少なくとも9人によって構成され、そのうちの5人のメンバーが定員会を構成することになっていた。会員の選出には「出席している、また定員会を構成する委員の三分の二の投票が」必要であった。会員委員会はその一般的な権限に加えて、個人の加盟申し込みと組織からの加盟申し込みを裁可し、その議決は、「理事会と執行委員会の認可に服す」<sup>14</sup> とされた。

その他の委員会については、「臨時、常置のその他の委員会は、状況に応じて理事会または執行委員会によって任命される」<sup>15</sup> ことになっていた。

### 3) スポーツマンシップ・ブラザーフッドの事業

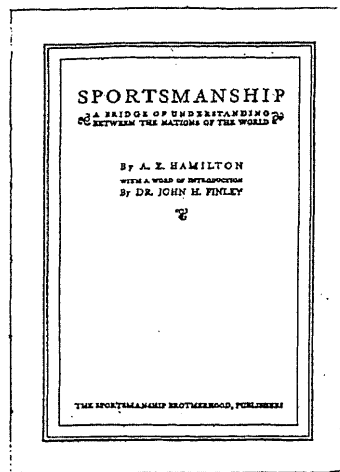
第8条には「アメリカ合衆国中にスポーツマンシップの精神を発達させるよう努力する一方で、スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、文明世界の至る所で、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの組織化を支援し、協力して行く」<sup>16</sup> というスポーツマンシップの国際的普及に関わる事項が規定されている。この条文では、既存の国際オリンピック委員会、YMCA、ボーイスカウトのような組織との連繋が展望されているというよりも、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの世界規模での普及という野心が濃厚である。

スポーツマンシップ・ブラザーフッドの代表的事業は、会員へのバッジの供給とスポーツマンシップ賞の授与にある。第9条のバッジと賞では、「1. スポーツマンシップ・ブラザーフッドのメンバーや良きスポーツマンシップの原理の促進と個人的実践を支援している様々な支部の個人会員によって身につけられる会員バッジと、パイオニアに対して与えられる特別バッジを設ける。2. 理事会の権威のもとに、高貴なスポーツマンシップの理想の範を示した個人に、賞として与えられる名誉バッジを設ける」<sup>17</sup> と規定されている。

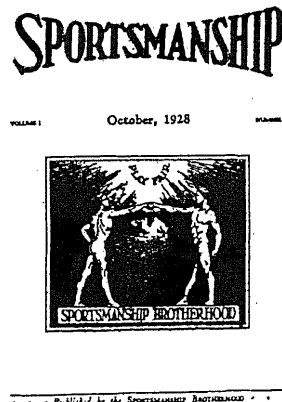
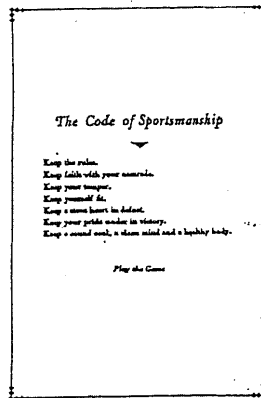
一方、書記長であった Daniel Chase は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの国際的普及を図るために、1927年5月にIOC会長の Henri Baillet Latour にこの組織の目的、活動を紹介する手紙を出してスポーツマンシップ普及運動での連帯を呼びかける手紙を出した。その手紙によれば、スポーツマンシップ・ブラザーフッドが New York, New Jersey, Delaware の東部3州に支部を持ち、その他 Connecticut, Pennsylvania 等の6州の様々なスポーツ組織に活動への参加を呼びかけている、と書かれている。<sup>18</sup> 主にアメリカの学童や生徒を対象にしたこの組織の活動は、特にサマーキャンプの開催を重視しており、ボーイスカウト、ガールスカウト、ボーイズクラブとの密接な連繋によってなされていた。また、アメリカの AAU (Amateur Athletic Union) の他に、カナダの AAU とも関係を深めていた。1928年12月から月刊の機関紙 *Sportsmanship* を発行し、スポーツマンシップを奨励する記事を掲載した。<sup>19</sup> (図2及び表2を参照)

表2 スポーツマンシップの記事タイトルと著者 (2003年9月27日 阿部生雄)

記事タイトル	著者
Sportsmanship	Mathew Wall
Amateur and Professional	
What is an Amateur?	G.W.Wightman, C.Paddock
A Champion to American Youth	Raymond J. Barbuti
Annual Meeting and Dinner of the Sportsmanship Brotherhood	
International Sportsmanship in Soccer	Dr.G.Randolph Manning
An Unsolved Problem!	
A Polo Incident	
News Notes	
Sportsmanship... Essay Contests	
War and Sport	
Sportsmanship First and Always!	
What is an Amateur?	Daniel J. Ferris
American Sports in the Near East	H.C.Jaquith, Director of the Greek Area, Near East Relief
A Crisis in Girl's Athletics	Ehel Perrin, Chairman of the Executive Committee of the Woman's Division of the National Amateur Athletic Federation
Putting the Coach on the Bench	E.A.Bauer
Executive Committee Meeting	
Dedication of History of the America's Cup	
Play the Game	Sir Henry Newbolt
News Notes	
The Coach and the Rules	
Distinctions in Sport Analyzed	Gustavus T.Kirby
Modern Sport Symbolized	
Sportsmanship in Business	George Adsit
Group Sportsmanship	
News Notes	
197 Anniversary	
Let us Exchange Coaches	
Do Women Show Sportsmanship?	
The Case for Competition	Dr. Clarence C. Little
Scouting has Come of Age	Gilbert H. Gendall, Regional Scout Executive
Is Sportsmanship Fully Accepted?	J.E.Rogers, Director, National Physical Education Service, President, Dept.of School Health and P.E. Of the National Education Association
National Sport Leaders to Meet	Frederick W. Rubien, Secretary of the American Olympic Association and international sports figure for many years
Comment on Benching the Coach	Elmer K. Smith, Supervisor of Health Education, Rochester, New York
News Notes	
A Pioneer	
The End of the War	
Your City and Recreation	
Come Clean, My Lad	
The A.A.U. vs. N.C.A.A	Avery Brundage, formerly a champion athlete, recently has been elected to the presidency of the AAU. John L.Griffith, Executive Vice President of the National Federation and a member of the Executive Committee of the NCAA
The Yost Luncheon	George Daley, of the New York World
International Sports Club Formed in London	
The Big Butter and Egg Man	
You have rated your caddy; How has he rated you?	
News Notes	
Ludus pro Parria...	
The Argonauts	
The Syracuse Conference	
Apologies to St. Paul	
Our Amateurs Are Paid!	Ray Barbuti, Olympic 400m Champion
The Sokol Goes Overseas	Dr.Gustave Kosik
The Melting Pot at Work	Thomas L. Cotton, Former Dartmouth Football Star and Chief of the Division of Foreign Language Organizations of the Foreign Language Information Service
Australia League Tours America	John Daniels, Secretary of the English-Speaking Union
News Notes	



左図  
1826 年出版の  
*Sportsmanship* の表紙



下図  
1828 年発行の機関誌  
*Sportsmanship* の表紙

図2 小冊子“Sportsmanship”と雑誌“Sportsmanship”創刊号

#### 4. スポーツマンシップ・ブラザーフッドの「スポーツマンシップ」とその性格

スポーツマンシップ・ブラザーフッドの「スポーツマンシップ」に対する理解は、1926 年に出版された小冊子の *Sportsmanship* が重要な手懸かりとなる。この本は Dr. John H. Finley、Lewis W. Smith（全国高等学校競技協会書記）、Captain Peacy Redfern Creed の献辞と、8つの章で構成されている。<sup>20</sup> ここではこの本を手懸りとしてスポーツマンシップ・ブラザーフッドの主張する「スポーツマンシップ」の性格をく垣間見ることにする。より詳細な検討は、ブラザーフッドの機関誌である *Sportsmanship* の分析を待たなければならないからである。この *Sportsmanship* と題された小冊子には、次のような7つの性格と特色が見出される。

##### 1) 国際主義とフリーメーソン主義

スポーツマンシップ・ブラザーフッドの展開したスポーツマンシップ・ムーブメントには、国際主義、あるいはフリーメーソン主義の影響が強く窺える。このスポーツマンシップ・ブラザーフッドの立ち上げに関与したイギリス人のキャプテン Percy Redfern Creed という人物は、19世紀的世界秩序の崩壊、第一次世界大戦という「巨大かつ破壊的な戦争」がもたらした変動と破壊の重複する時代状況を、スポーツマンシップというフリーメーソンの国際意識によって、新たな世界秩序を打ち立てようとする楽観主義的、理想主義的な観念を抱いたのであった。彼の献辞によれば、20世紀の最初の四半世紀に、ロシア、ドイツ、オーストリアの三つの軍事独裁体制が崩壊し、中国の



満州王朝も崩壊し、イスラムのカリフ支配も揺らいだ。インドは憲法を獲得し、南アフリカと南アイルランドも自由な自治を獲得した。科学と発明は、無線、写真、電話、飛行機、潜水艦をもたらした。そして「スポーツ」も新たにもたらされた重要なものの一つなのであった。

「そして最後に、恐らく最も重要なものであるが、人の任務にとって歴史上匹敵するものがないほど、健全な肉体における清らかな精神と健全な魂を促進する手段がもたらされた。・・・過去 25 年間の出来事の素晴らしい歩みの本質を見つめようとする人にとって、スポーツとゲームの奇跡的発達が全能の神の賜物であり、明らかに、自らの闘争で向上しようとする人にとって潜在的な祝福なのである。これは何億もの人類の心と精神に届くための手段なのである。上から大衆へとゆっくりと、不承不承に浸透してくる説教者や指導者を通じてではなく、若者と老人、賢者と無知な者、富者と貧者、そして両性やあらゆる国民の間に直接の繋がりを確立するような一つの手段を通じてである。スポーツマンシップの精神のフリーメイソン主義 (freemasonry) は、レースや前線で尻込みなどしない。＜全ての者にフェアプレーを、敗者にスポーティング・チャンス＞ (Fair Play for All and a Sporting Chance for the Underdog) の精神、＜生きよ、そして生かさせよ＞ (Live and Let Live) の精神。これらの精神は時代を通じて抑圧されてきたが、今や全ての人々が理解できる一つの関係において実現され、生き生きとした表現を獲得している。そして、理解しさえすれば、それらの精神は、人がジャングルの精神を逃れるときに力を結集するようなフェア・プレーのための本能を統御することができるのである。」<sup>21</sup>

Creed が強調するのは、「スポーツマンシップ精神の意味と価値」を世界の人々に伝え、多くの組織や諸個人が「国民的士気、身体的幸福、そして世界に対して与えられてきた国際的善意 (international goodwill) を促進する新しい手段」としてのスポーツマンシップの決定的な重要性を認識し、「その未発酵の塊を、自らの見解や精神によって発酵させることに喜んで手を貸そうとする」ことなのである。<sup>22</sup> 換言すれば、スポーツマンシップの普及運動は「国際的善意」の普及運動

に他ならないのである。更に極論すれば、フリーメイソン主義による国際的なスポーツマンシップ促進運動であったと考えられるのである。この点は、次のような主張にも窺える。

「こうした暗い時代において、スポーツとゲームは苦難に満ちた人間性に希望のメッセージをもたらす。スポーツマンシップの精神 (spirit) とフリーメイソン主義は、よりよき物事への方向を示し、その道筋に光を照らす。スポーツは、解毒をもたらす健全な魂 (soul) を持っていることから、現代生活の緊張やストレスに対する最良の消毒薬となる。スポーツは人と人との、国家間の最良のセメントである。・・・世界の平和は、真のスポーツマン精神、つまり、敗者のためのスポーツ機会とともに、全ての者に対するフェアプレーに懸かっている。食欲と暴力に基づく国際関係は長続きする事はできない。そうした国際関係は、その内部に、崩壊の種子をもたらす。」<sup>23</sup>

## 2) 脱宗派性とキリスト教的プロパガンダ

第二の特徴は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドのスポーツマンシップは、キリスト教の宗派主義を超えたキリスト教的なムーヴメントであり、その意味で「宗教的」なプロパガンダとしての性格を持っていたことである。この点は次のような主張に明瞭に表現されている。

「良き清潔なスポーツは、宗教に劣らず精神の開発者である。それは宗教が発達させようとしているのと同じ資質を発達させる。人間的な触れ合いや仲間意識は宗教の魂 (soul) であり、チームのための犠牲の精神と、スポーツに宿る献身と忠誠は、最も高尚な宗教教育がめざす精神的諸資質 (spiritual qualities) を発達させる。われわれのスポーツとレクリエーションは、正にわれわれの礼拝と同様、真の場所を持っている。」<sup>24</sup>

スポーツマンシップ・ブラザーフッドの展開したスポーツマンシップ・ムーヴメントは、純粹に「世俗的」な修養ではなく、限りなく「世俗的」な性格に近づけたキリスト教的修養を促進しようとする運動であった、と考えることができる。

## 3) 「民主主義」の促進

第三の特色は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、＜スポーツは民主主義を促進する＞という考えを普及しようとしていた点である。

Hamilton は、次のような Wisconsin 大学学長の Glenn Frank のデモクラシーに関する言葉の中に、ブレーグランドやスタジアムでのスポーツマンシップが日常生活や、とりわけ民主主義の政治にも融通するものである、ということを確認していた。

「健全なアメリカニズムの本質はスポーツマン的精神(sportsmanlike spirit)である。スポーツマンシップの苦い試練は、我々が多数決のルールと呼ぶものに対して我々がとる姿勢である。多数決のルールは民主主義の基礎である。多数決のルールは決して完全なものではない、しかしそれに代る優れたものは見当たらない。・・・人間性(humanity)の希望は、多数決のルールをスポーツマン的流儀によって、どのように執行するかを知っている民主主義にある。多数決のルールにスポーツマンシップを加えたものは、全ての者にとっての自由(freedom)を意味する。多数決のルールからスポーツマンシップを引くことは、王の圧政よりもっと邪悪な圧政を意味するであろう・・・多数決に伴う罪とは、多数決というルールを暗黙の論争や対抗の決着のために利用したがることである。意見を標準化しようとすることである。こうしたことを許す国民にとって、多数決ルールは死を意味する。というのも、多数決はそれ自体のイニシアチヴで前進の一步を踏み出したことはなく、進歩は少数派によって促されてきたという理由による。健全なアメリカニズムはそのパイオニアたちを守るであろう。少数派が理念を創造することを許すことなくして、アメリカに進歩をもたらすことはできない。少数派は、多数派が対決を決着するときに、スポーツマン的でなければならない。多数派は、少数派が議論を指揮するときに、スポーツマン的でなければならない。これがスポーツマンシップの精神である。これが健全なアメリカニズムの本質である。」<sup>25</sup>

この民主主義は、同時に国際デモクラシーや、産業デモクラシーの意味をも包含している。前者は民族主義や人種主義に伴う差別主義を抑止する力であり、後者は工業力と産業力の点で、先進国と後進国の差を僅少化しようとする力である。Hamilton は、中東、東南アジア、中国、インドにおける産業化と工業化の進展に言及し、後進国に対する配慮、「フェアプレーの精神と敗者のためのスポーティング・チャンス(sporting chance)」

の重要性を主張する。<sup>26</sup> 更に彼は、共通のルールとコードを持つスポーツを多様な人種が共に楽しむことを可能にする「民主主義」の必要を強調し、世界規模でスポーツの精神を伝道した Basil Mathews の言葉を引用しつつ<sup>27</sup>、スポーツマンシップが多様な民族をいわば「民主的」に結びつける黄金律となる、という素朴な確信を表明している。

「フットボール、サッカー、ホッケー、ベースボール、クリケット、バスケットボール等のルールは標準化されている。年々、小さな変更もあり得ようが、その本質は同じままであり、その変更は直ちに理解され、従われる。ゲームを支配するスポーツマンの精神は永遠であり、依然として幽霊や悪魔を信じ続けるオーストラリアのブッシュマンや、全能の唯一神を信じるオックスフォードの卒業生によっても、感受され生かされている。セイロンの学校には、シンハラ族、タミール人、ビルマ人、オランダ系スリランカ人、イギリス人、スコットランド人、パガンダ族や中国人のような多様な人種の少年たちがいた。仏教徒、ヒンズー教徒、回教徒、キリスト教徒がいた。しかし、彼らの全てはゲームのスポーツマンシップを通して解釈されるその黄金律の下でプレーすることを受け入れ、実践し、楽しんだのである！」<sup>28</sup>

#### 4) 戦争の否定と闘争本能の温存

第四の特色は、戦争の否定と闘争本能の温存という点にある。スポーツマンシップ・ブラザーフッドは国際的な平和運動を意図していたことから、勿論、基本的には、戦争を忌避する。しかし、「いかにスポーツの戦場が世界にとって戦争に匹敵する道徳>となるのか分からないのだろうか？何故なら、我々は決してファイティング・スピリットを失ってはならないからだ。我々は Theodore Roosevelt が言うように、それを<主のための戦闘>に変えなければならないのだ」<sup>29</sup> というように、平和創出には戦争ではなく「戦い」(fighting)が必要であるという考えを保持していた。スポーツは「戦争に匹敵する道徳」(moral equivalent of war)を与えてくれるものであり、戦争に代わってファイティング・スピリットを温存してくれるものであった。Hamilton はハーヴァード大学の George E. Johnson 博士の言葉を援用しつつ、この点を次のように述べている。

「Johnson 教授は次のように言う。＜戦争に帰せられる恩恵的な結果をもたらしたのは戦争ではなく、戦い(fighting)である。パーバリズムや墮落から救済するものは、平和ではなく、正しい道に則り、間違いを正してゆく戦いー最も困難な種類の戦いーなのである。個人が適応すべき人種が持つ真の精神は、戦争の理想ではないし、“平和がないときに平和、平和と叫ぶ”平和主義者の理想でもなく、戦いの理想(fighting ideal)なのである。＞それでは、子供や若者に人類の英雄的資質を保存し、しかも世界の平和に奉仕するように教える教育方法が、何かあるのであろうか？多くの国の、ますます増えつつあり、多数の善良な男性や女性は、この問いに対して確信をもって“Yes!”と答えている。スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、この確かな答えを具体的、実際の、応用可能な形にするために結成されたのである。」<sup>30</sup>

「フットボールの激しい試合は、観客席に坐っている観衆にとっても、人間性をその深みにおいて覚醒するものではないだろうか？ホッケーの熱心な試合は勝者にとっても敗者にとってもよいものではないだろうか？忠実、団結、不屈、体力、これらの資質なくして、一体いかなるベースボールチームが勝利を収めその地位を維持できようか？良心と英雄資質は、偉大なオリンピック大会のマラソンや高校のバスケットボール・チーム同士の試合にもはっきりと見えるのではないだろうか？勿論、諸個人としての我々自身のために、また諸国家の中の一国家としての我々の国のために、こうした本質的な人間的徳性を引き出し、発達させるために、我々は戦争に行く必要などないのだ！」<sup>31</sup>

##### 5) 労働力保全：労働の潤滑油

第五の特色は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドはアメリカ労働総同盟と密接な関係を持っており、ブラザーフッドの主張するスポーツマンシップは、労働力保全のプログラム、即ち健全な労働者育成のための修養プログラムという側面を持っていたということである。よく知られているように、アメリカ労働総同盟の副会長であった Matthew Woll は、既に見たように、反共主義者でスポーツマンシップ・ブラザーフッドの設立当初からの会長であった。彼はスポーツマンシップ・ブラザーフッドを社会の組織や機構の「潤滑油」

として位置づけていた。多くの労働者がスポーツマンシップ・ブラザーフッドに加盟することにより、アメリカの労働界は「潤滑」になると期待された。

「スポーツマンシップ・ブラザーフッドは単なる新しい組織ではなく、Mr. Chase が言ったように、既存の、機能している機構のための潤滑油なのである。必要と思われる所に、この精神的潤滑油を注ぎ込もうではないか。スポーツやゲームに、報道に、ビジネスや政治に。真のスポーツマンではない者が居心地良く生活できないような雰囲気を作り始めようではないか。人生のゲームを、すべての者がそのゲームに参加するなら、そのルールを守ろうとするようなものにしようではないか。倫理的、道徳的、罪深い、善い、悪い、公正な、不正なといった言葉を、たった二つの言葉、sportsmanlike と unsportsmanlike という言葉にいつも置き換えるようにしよう、そうすればいかに効果的になることだろう。」<sup>32</sup>

このように、スポーツマンシップ・ブラザーフッドにとって、スポーツやゲームは労働力保全のための最も見込みのある修養プログラムなのであった。

##### 6) 大人への誘い：スポーツマンシップとジェントルマンの規範

第六の特色は、スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、ボーイスカウト運動と同様、一種のユース・ムーヴメントを志向しており<sup>33</sup>、プレイヤースポーツやゲームを通じて少年を大人にする通過儀礼の手法を重視していた、という点である。そこには、幼いころからスポーツやゲームで培った社会的な資質は、後の大人の社会においても通用するという考え方が、その根底に存在していた。Hamilton が引用する次のような Missouri 州公立学校の教育長であった Charles E. Lee の言葉は、こうした点を裏書きする。

「athletics と games の社会的訓練は生活 (life) に通用するのか、ということについて多くの議論がなされてきた。・・・殆どの議論は注意深い分析を欠いていた。遊びは子供が生活する社会環境である。その中で子供たちの友情や社会関係が育まれている。遊びの中で良き友達や仲間となることを学んだ少年は、どこであれ、同じような社会関係を用いる社会的態度を発達させ

ている。・・・忠誠と協力は、フットボールから教会と国家へと持ち越されるのであろうか。恐らくそんなことはないであろう。しかし協力と忠誠は、第一次的な資質ではない。その両者は、メンバーシップの感覚、一部であるという感覚、団体意識や社会的感情の感覚に依存している。この所属の感覚、集団の一部であるという感覚は、少年たちが一緒になって一味 (cliques) やギャングになりたがったり、殆どのチームゲームが通常行われるようになる思春期の頃に身についてくる、ということは確かなことのように思われる。チームゲームが＜チーム感覚＞を養う最も効果的な訓練であるということは、確かなことであるといえよう。この団体感情は忠誠心や協力の基礎である。・・・スポーツマンシップはジェントルマンの規範である。それは、対校競技からもたらされる最も重要な結果の一つであり、また礼儀や優しさやフェアネスを育むことのできるもっとも重要な訓練の一つである。生徒の団体にスポーツマンシップとは何かを理解させるような、そしてその生徒の団体が学校の代表であることを自覚させるような、しっかりとした努力があつてしかるべきである。」<sup>34</sup>

少年を「ジェントルマン」に育て上げる装置が「スポーツマンシップ」ムーヴメントなのである。こうしたムーヴメントは、当時の教育者、教育学者、心理学者の言説や支援によって下支えされていたのであった。

#### 7) スポーツマンシップ綱領

第七に、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの掲げたスポーツマンシップ綱領は、今迄述べてきたあらゆる論点が吟味され、注意深く捻出された、少年を「ジェントルマン」に仕立て上げる一種の「教育的」、「修養的」な倫理綱領であった。その雛型は、イギリスにおける簡単なものであったという。<sup>35</sup> しかし、それが、アメリカでは、より詳細なものとなった。例えば、高校生スポーツマンのために、ニューヨーク州体育局主任であった Daniel Chase によって 1921 年に起草された次のような「スポーツマンのための 14 条」は、ジェントルマン育成のための「修養」の具体的な理論でもあったことを示している。

1. いつもフェアにプレーする。→ 騙さない。
2. 最後まで一生懸命プレーする。→ 諦めない、臆病でない。

3. 冷静さを保つ。→ もし間違っていたとしても怒らない。
4. プレーする喜びのためにプレーする。→ お金やその他の報酬のためにプレーしない。
5. よきチームの働き手である。→ 「スタンド・プレー」をしない。
6. トレーニング規則を守る。→ 肉体を酷使しない。
7. コーチやキャプテンの命令に従う。→ 責任回避をしない。
8. あらゆる学校の仕事に全力を注ぐ。→ 自分の勉強をおろそかにしない。
9. 正直なやり方で自分のチームを援護する。→ 賭けない。賭博を忠誠心に必要と考えない。
10. 自分の相手を公平に扱う。→ 技術的アドヴァンテージを拒否する。
11. 審判を尊敬する。不利な判定を堂々と受け入れる。審判がルールを実施するのを期待する。→ 訪問選手を客人のようにもてなす。負けても決して審判を咎めない、「文句」(crab)を言わない、「苦情」(kick)を言わない、不平を言わない。

#### 負けた時

12. 勝者を祝福する。その敵に心からの信頼を与える。自らの失敗から自分の欠点を正すことを学ぶ。→ 落胆ぶりを見せない。負け惜しみや言い訳を言わない。

#### 勝った時

13. 寛大で、謙虚で、思いやりがある。→ 自慢したり、得意がったり、悪態を吐かない。
14. 常に自己の高尚な理想に忠実であろうとする。→ ジェントルマンに忤うことはしない。<sup>36</sup>

スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、こうした剥き出しの修養的な倫理綱領を、可能な限り洗練化しようとした。そして、1923 年に J.P. Bowditch によって作成された、すでに冒頭のところで紹介したようなスポーツマンシップ綱領を掲げたのであった。日本にも早くから紹介されていたこの綱領は、今日では全く忘却されてしまった感があるが、依然としてアメリカのボーイスカウト運動の一翼である Webelos (We' ll be Loyal Scouts) の少年たちに根強く受け継がれている。

おわりに

スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、オリンピック・ムーヴメントやボーイスカウト・ムーヴメントに刺激を受けた組織であったことは間違いない。しかし、その両者がもった強固な組織的基盤と会員数を世界規模で伸張することはできなかったと考えられよう。既に指摘したが、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの書記長であった Daniel Cash は、IOC 会長の Baillet Latour に宛てた 1927 年 5 月 14 日付の手紙で、スポーツマンシップ普及運動に対する IOC の連帯を要請した。その手紙に対する Latour の 1927 年 6 月 16 日付の回答は、すでにその種の考えは 1925 年のプラハでの IOC 総会で、Rev. de Courdy Laffan によって表明されていること、IOC よりも AOC (American Olympic Committee) の方がより協力的に対応してくれるであろうとして、やんわりと連帯を拒否したのであった。<sup>37</sup> スポーツマンシップ・ブラザーフッドの活動は、その早期から国際的普及の道を断たれたように思われる。ブラザーフッドはアメリカ国内において一定の普及をみたものの、*Encyclopedia Association 1968* では、その活動は 'inactive' と報告されている。僅かにボーイスカウトの Webelos における少年たちの倫理綱領にその面影を残している。

「スポーツマンシップ」は、スポーツの場面に限らず、果たしてあらゆる社会生活に適用できる資質を集約したものなのであろうか。少なくとも当初のスポーツマンシップ・ブラザーフッドは、「スポーツマンシップ」の倫理が、反戦的国際主義、キリスト教的世俗主義による修養主義、民主主義の促進、戦争ではなく善なる目的に向けた闘争心の必要、良き労働者の育成、良きジェントルマンの育成に役立つと信じて、この運動を開始した。つまり、スポーツマンシップは、国際人／コスモポリタンの育成、国際的平和秩序の創出、良き市民の育成、民主主義の普及、労働力保全という、あらゆる問題に有効な道徳的カテゴリーに昇格したのであった。James W. Keating のかの有名な論文、*Sportsmanship as a Moral Category* の中で、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの「スポーツマンシップ」は、その万能性 (catch-all) の故に、*The New York Times* 紙で評価されたことを紹介している。

「苦楽が訪れたとき、苦と楽をとれ、そして常

にく正々堂々と闘え> (play the game)。それが真のスポーツマンシップの言い伝えだ。球技場であれ、テニスコートであれ、ゴルフコースであれ、あるいは机であれ、機械であれ、スロットルであれ。<正々堂々と闘え>。それは誠実さ、勇気、スパルタ的忍耐、自制心、贅沢への軽蔑、相互の意見や権利の尊重、礼儀正しさ、そしてとりわけフェアさである。こうしたものは、スポーツマンシップ精神の果実であり、それらのうちに... 社会的安寧の最良の希望がある。」<sup>38</sup>

しかし Keating は、こうした「万能性」が、道徳的カテゴリーとしての「スポーツマンシップ」の性質を不鮮明にしていると主張する。確かに、「万能性」は、Keating の固執する、遊戯性を重視する「sport」と競技性を重視する「athletics」の、カテゴリー的差異とそれらに対応する道徳的資質の差異を曖昧にすることを意味する。哲学的考察からすれば、論理的に存在するカテゴリーを無視するような不明瞭性は、克服されねばならないであろう。しかし、歴史的に見るとき、その「スポーツマンシップ」の万能性と不明瞭さこそが、スポーツマンを呪縛し、スポーツ界を席卷する大きな要因であった、とも言えるのである。スポーツマンシップの哲学を置き去りにして、多くのスポーツマンはスポーツマンシップを日常言語とし、スポーツと道徳を取り結ぶ資質を表現する言葉としてきたのである。スポーツマンシップ・ブラザーフッドは、確かに「スポーツマンシップ」の万能性と不明瞭さを助長したといえよう。しかし、それ故に、多様な言説を開発した、ともいえるのである。

## 注および参考文献

- <sup>1</sup> Hallick, Charles, *Pioneer American Sportsmen, Outing*, Vol.37, Jan, 1901, pp.419-426.
- <sup>2</sup> Corbin, John. *The Modern Chivalry, Atlantic Monthly*, Vol.89, May, 1902, pp.601-611.
- <sup>3</sup> Elmer L. Johnson は、YMCA の歴史を 1)創設期 (1851-1860)、2)身体工作の初期 (1860-1880)、3)根本原則の確立 (1880-1900)、4)標準化と拡張 (1900-1920)、5)新体育の模索 (1920-1940)、6)体力と良き生活 (1940-1960)、7)現代 (1960-1976) という 7 つの時期に分け、YMCA 体育の国際的普及への取り組みが活発化したのが 1900—1920 の時期で

あったとしている。「この時期は継続的な国際主義の時代であった。この国際主義の時代は、19世紀に始まりそのテンポを20世紀に加速し、様々な宗教的、博愛的エージェンシーが外国に到達し、伝道や学校、医学的プログラムや協会を確立した。YMCAはこの壮大な人道的奉仕活動(humanitarian outreach)の一部を担った。バスケットボール、バレーボール、そして Learders' Corps のプログラムは東洋、インド、メキシコ、南米に成功裏に移植された。1908年に上海に完成した最初の YMCA 体育館は、東洋における YMCA 体育メソッドの受容を象徴した。」(Elmer L. Johnson, *The History of YMCA Physical Education*, Association Press, 1979, p.110.)

<sup>4</sup> ABE,Ikuo. Historical Significance of the Far Eastern Championship Games: An International Political Arena, *Bulletin of the Institute of Health & Sport Sciences*, University of Tsukuba, Vol.26, 2003, pp.37-68.

<sup>5</sup> A.E. Hamilton, *Sportsmanship. A Bridge of Understanding between the Nations of the World*, The Sportsmanship Brotherhood, Publishers, 1926, pp.87-89.

<sup>6</sup> Ibid., p.5. この小冊子の扉頁には、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの標章、目的、スポーツマンの名誉の規範が掲げられ、その著作権が J.P.Bowditch によって 1923 年に取得されたことが明記されている。その標章は、二人の若者が北米大陸と思わしき大陸の描かれた地球を挟んで立ち、握手をしており、「Play Fair」とかかれた太陽が二人の若者と地球を照らしているという構図になっている。原文は、「He keep the rules. He keep faith with his comrade, play the game for his side. He keep himself fit. He keep his temper. He keep from hitting a man when he is down. He keep his pride under in victory. He keep a stout heart in defeat accepted with good grace. He keep a sound soul and a clean mind in a healthy body.」である。

<sup>7</sup> The Sportsmanship Brotherhood, Inc. Constitution of the Sportsmanship Brotherhood, Inc., date unknown, pp.5-6.

<sup>8</sup> Ibid., p.6.

<sup>9</sup> Ibid., pp.6-8.

<sup>10</sup> Edited by Jo Ann Bodston, John Dewey: The Later Works, 1025-1953. Volume 5: 1929-1930. Southern

Illinois University Press, 1984, pp.387-392.

<sup>11</sup> Ibid., pp.8-9.

<sup>12</sup> Ibid., p.9.

<sup>13</sup> Ibid., pp.9-10.

<sup>14</sup> Ibid., p.10.

<sup>15</sup> Ibid., p.11.

<sup>16</sup> Ibid., p.15.

<sup>17</sup> Ibid., pp.15-16.

<sup>18</sup> Daniel Chase から IOC 会長 Count Henri Baillet Latour に宛てた 1927 年 14 日付の手紙と、それに付された書類を参照。Olympic Museum in Lausanne, YMCA File より。

<sup>19</sup> 月刊誌 *Sportsmanship* は 1931 年 4 月迄発行され、1931 年 9 月からは *Scholastic Coach* と改題された。

<sup>20</sup> 第 1 章「スポーツマンシップの精神」、第 2 章「スポーツマンシップは民主主義」、第 3 章「戦争とスポーツマンらしさ」、第 4 章「戦争の心理」、第 5 章「すべての子供にチャンスがある」、第 6 章「サマーキャンプ」、Matthew Woll による第 7 章「われわれは何をしようとするのか」、Handley Cross による第 8 章から構成されている。

<sup>21</sup> Op.cit., (A.E. Hamilton), p.12.

<sup>22</sup> Ibid., p.13.

<sup>23</sup> Ibid., p.17. こうしたフリーメーソン主義は、Basil Mathews の国際主義におけるスポーツのアナロジーにも見出される。「私がそのフィールドから、下の岩に白い泡沫をあけて砕け散る地中海の澄んだ青い海に目をやったとき、全ての人間の光景が私の心にパッと閃いた。私が見た世界はまさにフットボール場のようなものである。世界の人種闘争の問題は、バイルートでのスポーツ・キャプテンの問題と全く同じなのである。この広大な世界というフィールドには多くの民族(nations)がいる。その各々が、自らの人種的、国家的栄光のゴールを目指して、歴史というフィールドで達成のボールをドリブルしようとしている。世界規模でのチームプレーがない。人類(human race)にとって必要なのは、世界国際チーム(World International Team)なのである。」(Ibid.p.28.)

<sup>24</sup> Ibid., p.16.

<sup>25</sup> Ibid., pp.21-22.

<sup>26</sup> Ibid., p.26.

<sup>27</sup> Ibid., pp.30-31. Basil Mathews は、セイロンの酋長の息子が、数多くの人種が集まる「バブリックスクール」の Kandy 校でのクリケット試合で、ア

ンパイアの判定に異議を申し立て、正義感から自分のチームに不利になるような判定を求めたという話を紹介し、次のようなコメントを加えた。「アンパイアの決定を覆すよう示唆することは、厳密に言ったら、クリケットのルールに反することであった。しかし、いかに厳密な意味での誤ちを咎めようが、その少年(a tribal Kandyan chieftainの息子)が行ったのは良きスポーツマンシップの精神においてであった。まさしくここには、自分のサイドの他の者にパスを送るチーム・スピリットよりも偉大な何かがある。それは相手に対して絶対的なフェアさでゲームをする精神、ゲームのために正々堂々とプレーする精神である。未来の幸福があるのは、そのクリケットのキャプテンの精神が人種的、国家的関係の世界に広がることにある。」

<sup>28</sup> Ibid., p.31.

<sup>29</sup> Ibid., p.18. ファイティング・スピリットの温存については、William James の次のような指摘が引用されている。「戦争は人生のきつい坂道を登る機会を提供する。それは平坦な退化から救う。戦争のみが人間性をその深みにおいて覚醒することができる。戦争は勝者にも消された者(the vanished)にも良い事である。それは不屈の精神の理想を保存する。それ故、我々は軍事的性格を保ち続ける必要がある。他のものでは一切なし得ないことから、戦争は忠実、団結心、不屈、体力、良心、英雄資質の機会を探り出し、その試練を与える。戦争は、それ故、生物学的・社会学的必要、永遠の人間の義務、国民健康の手段、人間の熱心な努力の成功の劇場となる。」(Ibid.,p.19.)

<sup>30</sup> Ibid.,pp.20-21.

<sup>31</sup> Ibid.,p.20.

<sup>32</sup> Ibid.,p.78.

<sup>33</sup> Ibid., p.74. 例えば、スポーツマンシップ・ブラザーフッドの会長である Matthew Woll は、次のようにアメリカ版のボーイスカウト運動の創始を念頭に置いていた。「今日、ヒューマニティのために多くのことをなしている一つのムーヴメントは、ボーイスカウトであろう。喜ばしいことに、アメリカはこの運動を熱狂的に取り上げてきた。しかし、それはアメリカで生まれた運動ではない。・・・しかし、私はやがてスポーツマンシップ・ブラザーフッドが世界に根を張り、第一次大戦後、民主主義のためにアメリカが果たした貢献として認識されるであろうと確信している。」

<sup>34</sup> Ibid., pp.51-52.

<sup>35</sup> Ibid., p.54. イギリスでは体育館の壁やパンフレットに「スポーツマンは、1. ゲームのためにゲームをプレーする。2. 自分自身のためでなく、自分のチームのためにプレーする。3. 良き勝者であり、良き敗者である。一勝利にあつて慎み深く、敗北にあつて寛大である。4. 利己的ではなく、常に他者に教えることを厭わない。5. 一人の観客であるとき、両チームの素晴らしいプレーを喝采し、決してレフェリーやプレーヤーに干渉しない。」という言葉が取り上げられていたという。

<sup>36</sup> Ibid., pp.52-53.

<sup>37</sup> IOC 会長 Baillet Latour から Daniel Cash への 1927 年 6 月 16 日付の手紙。Olympic Museum in Lausanne, YMCA File.

<sup>38</sup> Keating, James W., Sportsmanship as a moral category. *Ethics*, vol.75, Oct.1964, p.28.